

# 設 立 趣 旨 書

わが国に於けるアコーディオンは、歌謡曲・童謡・唱歌・シャンソン・タンゴなどの音楽に欠かせない伴奏楽器として、また、学校教育における合奏、バンドやアンサンブル、街頭でのパフォーマンス楽器として多様に存在し、どこでも弾ける軽便な楽器の特性から多くの人々に親しまれ続けてきた。近年では、ポピュラー音楽における新しい演奏スタイルや、さらには楽器の改良とともに独奏やアンサンブルの芸術表現豊かな楽器として世界的に再評価がすすむなか、最近のマスメディアにおけるこの個性ある楽器の進出は著しく、若者の関心の高まりは顕著である。

にもかかわらず、わが国におけるアコーディオン音楽の普及と教育をめぐる環境の立ち遅れは、多くの音楽関係者からも指摘されて久しい。戦後のアコーディオン界諸先輩の思いを受け継ぎ、「日本アコーディオン協会(JAA)」を平成6年11月に設立。以来10年にわたる活動の中で、この環境改善を主要課題として取り組んできた。

社会福祉におけるこの楽器の役割は大きく、老人ホーム等での歌の伴奏や演奏が会員の活動の一つともなり、また、高齢化社会を迎えたなかで中高年者の生涯学習にも活用されている。学校教育・障害児教育・保育・リハビリテーションの現場(音楽療法など)での活用例も増えてきている。とはいえ、この分野にはまだこれから豊かな未来が想定される中、子供たちがこの楽器を学ぶために、地域に於ける青少年の情操教育の一環となるような環境づくりの大切さがあらためて指摘されている。

こうした様々な分野での新たな変化に対応した教育プログラムの提供は急務である。さらに、芸術音楽のための作曲・演奏・教育等での地道な活動が成果をあげているが、若者たちが専門教育を受けるためには海外に留学せざるをえないのが現状であり、自国で学べる環境として大学等に於ける専門コース・アコーディオン科の設立が切に望まれている。

過去に3回の全国規模の主催コンクール(三回目は国際コンクール/東京都江戸東京博物館共催)を開催。内外の多くの専門家(ドイツ、スウェーデン、フィンランド、中国、フランス等)の協力も得、高い評価を受けてきた。参加者はヨーロッパ・アジアに広がり、アコーディオン音楽の発展と、国際文化交流の一翼を担っている。近隣諸国とりわけ中国との交流は当面のテーマである。

「特定非営利活動法人日本アコーディオン協会」は、わが国におけるアコーディオン音楽の普及と質的向上を目的とし、その活動を通じてわが国の音楽・芸術文化、社会福祉、地域振興、青少年教育、国際文化交流等に貢献するものである。これらを通して、奏者の育成、良質で安い楽器の提供等を進め、同時にアコーディオンの社会的地位の向上を目指したい。

公共団体、企業などとタイアップし、プロフェッショナルとアマチュアが協力しあって、わが協会の目的を達成すべくこれらの事業を推進するためには、法人化は必要不可欠と考え、私達は「特定非営利活動法人日本アコーディオン協会」を設立することとした。

平成16年1月25日

特定非営利活動法人 日本アコーディオン協会  
設立代表者 松永 勇次